

中野区教育委員会会議録 平成23年第3回臨時会

○開会日 平成23年7月29日（金）

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後 1時00分

○閉 会 午後 3時15分

○出席委員（5名）

中野区教育委員会委員長	山 田 正 興
中野区教育委員会委員長職務代理	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員（5名）

教育委員会事務局次長	村 木 誠
副参事（子ども教育経営担当）	白 土 純
副参事（学校教育担当）	宇田川 直 子
指導室長	喜 名 朝 博
統括指導主事	杉 山 勇

○担当書記

子ども教育経営分野	落 合 麻理子
子ども教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	山 田 正 興
委 員	大 島 やよい

○傍聴者数 0人（非公開）

○議事日程

[協議事項]

(1) 教科書採択について

中野区 教育委員会
第 3 回臨時会
(平成 2 3 年 7 月 2 9 日)

午後1時00分開会

山田委員長

皆さん、こんにちは。

ただいまから、教育委員会第3回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、大島委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

本日、事務局職員は協議事項の教科書採択に関係する職員として、次長、子ども教育経営担当、学校教育担当、指導室長に出席をお願いしてありますので、ご了承ください。

また、教科書採択にかかわる職員として統括指導主事に出席を求めていますので、ご了承ください。

それでは、日程に入ります。

<協議事項1>

山田委員長

協議事項「教科書採択について」の協議を進めます。

ここで委員会運営について確認いたします。

教科書採択に関する教育委員会の審議過程につきましては、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第10条の規定に基づき、採択が行われる日の前日までの間は非公開とすることと定められています。7月27日の臨時会で確認しましたとおり、本日の臨時会も非公開とさせていただきます。

(平成23年第22回定例会において公開の議決がされたため、以下の非公開部分を公開)

山田委員長

それでは、前回に引き続き、協議を進めたいと思います。

次に、保健体育についての協議を進めたいと思います。

各委員それぞれからご意見をお伺いしたいと思います。

それでは、教育長からお願いいたします。

教育長

保健体育ですけれども、改定の趣旨では、運動を豊かに実践していく観点から発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図る、それから子どもたちの発達段階を踏まえて

保健の内容の体系化を図る、健康・安全に関する内容を重視する観点から自然災害に伴う障害の防止や医薬品についての指導の充実を図ることが改定の趣旨にあります。

そうしたことを踏まえて、東京書籍、学研、大修館、大日本図書の4社が教科書を作成しているわけですが、このうち大修館、大日本図書につきましては、なかなか指導に当たっては幾つか課題があるかなというふうに思いました。

一つ大日本図書につきましては、判がほかの社に比べて大判になっています。ただ、大判の割には印象として絵や写真が小さいという印象があります。また文字量というか、文章が非常に多くなっていて、読むだけで結構苦勞するかなというような気がしますし、言語活動重視という観点からすると、考えて議論をしていくということが少し弱いのかなという気がいたしました。

また大修館につきましても、表やグラフが少ないので教師が指導していくにはちょっといろいろ工夫をしないとイケないかなというふうに思います。

またちょっとイラストが幼稚っぽいというか、割とデフォルメされているような感じで親しみにくかったり、それから図やイラストもわかりにくいというようなことがあります。また先ほどの大修館と比べて文章が、字は大きいのですが、文章の量が少ないようなイメージがありまして、それから絵は多いのですが、資料が少ないということで、知識の定着ということからするとどうなのかなということを思っています。

反対に学研と東京書籍ですが、これはどちらも先ほどお話しした学習指導要領改定の趣旨を踏まえたバランスのとれた教科書だというふうに思っています。

特に東京書籍につきましては、単元末の確認の問題ですとか、それから取りまとめが学習のまとめというのが充実をしているということと、それから小学校からの接続ということを意識されているというふうに思いました。紙面構成も豊富で理解が進みやすいのではないかなというふうに思っています。

一方、学研ですが、バランスがとれて教えやすい教科書というのは変わりはないのですが、図やグラフなどを使って構成をしているのですが、イラストがほとんどで写真が少ないなということではイメージしにくい場面もあるのではないかなというふうに思っています。

また、どちらも応急手当についてわかりやすい解説をしているのですが、どちらかというと、東京書籍のほうが子どもたちには親しめるような内容になっているのではないかなと思ひまして、東京書籍のほうを推したいというふうに思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

続いて、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

私も学研か東京書籍だろうと思うのですが、目次の次あたりの写真とかいっぱい出てくる、何を学ぶかというところ、これはかなり違う感じですね。

東京書籍は最初にスポーツ用具で靴の写真とかいっぱい出てきて、その次のページのところでは、いろいろな仕事とかスポーツとか健康とかという場面で写真入りで説明があって、あと運動、スポーツ、食事というので細かなところ。そして教科書の使い方の説明があって、保健に対しての学習があって、それから初めて保健編1というのが始まるのですが、こういう最初の入り方、それは授業で、その順番でやるわけではありませんけれども、理科もそうですが。

それに比べて学研のほうは、最初は生命の誕生、それから環境汚染と保全、内容がかなり本文に入り込むような、関連ができそうな導入になっているといたしますか、自然災害に備えるとか喫煙・飲酒・薬物乱用、それから感染症、かなり最初の部分が違うなという気がします、入り口のところで。

どちらがいいか、なかなか言いにくいところがありますけれども、学研のほうの方がわかりやすいと言えればわかりやすいのかもしれないですね。

東京書籍のはいろいろ出ているけれども、教科書の使い方であったりするから直接子どもの勉強につながらない。意識的につながりにくいところがあるかもしれないですね。あともう1点、ぱっと見て違うところは何かというと、教科書の色合い、明るさが違うんですね。東京書籍のほうは本文のほうの、例えば6ページ、7ページから始まる「フィジカルな発育」ここのところをあけてみて、それから学研のところの8ページ、9ページ、これは同じなんです。体の発育・発展」。両方あけてみて比べると色合いが全然違うんですよ、教科書の全体の。

東京書籍のほうはオレンジ色っぽいというか、明るい色っぽいのが多くて、学研のほうはグラフ等水色っぽいとか、ちょっと。抑えた、落ちついた色合いがあって、色合いの違いがちょっと、ずっと見ていって少しずつ違うかなという気がします。場所によってはそうでないところもあるのですけれども。

もう1点は、文字がどっちが読みやすいかというものもあると思うのですけれども、どう

でしょうか。東京書籍のほうはやや大きいと言ってもいいのでしょうか、大きいけれども、細いのでしょうか。

学研のほうは小さいけれども、濃いんでしょうかね。紙の色が違うからかしら。ポイントは同じ活字なのかもしれませんが。

ということで、全体に落ちついて見やすいのは学研かなと思っているのですけれども、見た感じだけで。内容はあまりどっちつかずだと思うので、両方同じ推薦で構いません、私は。そんなに遜色ないかなと思っていますので、学研、東京書籍どちらでもいいかなと思っています。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

東京書籍、学研、大修館、大日本図書、4社から出ておりますが、やはり保健の場合、体育をきちんと時間をとってやって、雨が降ったから保健ということも現場ではあり得るのかと。

そうしますと、スタートとしまして、大修館と大日本図書は体育が先に来っていますが、やはり保健が先のほうが取つきやすいのではないのかなと思います。

ほかの委員も指摘したように、大修館については、やややはり物足りない。何かちょっとコラム的、もともとほかのところも單元ごとに完結になっているので、ほかの教科に比べればコラム的になりやすいのですが、特に大修館に関しては見開きが、下手をすると15分ぐらいで終わってしまうような印象があるので、ちょっと教科書としていかがかなと。

逆に大日本図書については、大判のよさが生かし切れていないような気がしますので、私も東京書籍か学研がいいと思います。

特に私のほうでは喫煙の害や飲酒のところ、感染症のところを見てみますと、全般的に両方とも非常によく書けているかなと思いますが、例えば飲酒と健康のところですと、学研の場合は「一気飲みはやめましょう」と書いてあるのですが、では、一気飲みじゃなければ青年なら飲んでもいいのかと。確かに法令上はお酒は別にいいのですけれども、今の流れから言うと、喫煙とか飲酒もそんなにお勧めすることでもないのかと、よりちょっと厳し目に飲酒の害や喫煙のことが書かれているのが東京書籍なのかなと、個人的な考えでは思っております。

東京書籍の特にいいと思うところは、各単元の最後に確認の問題、活用の問題というの
がありまして、そこでまとめがあるのですね。やはり保健体育の先生の場合は、別途副教
材を用意してというのはなかなか手が回らないのかなと思いますし、全般的にどうしても、
ほかの大修館以外でも細切れのコラム的な形になるので、教科書の中でこういった形で総
括をすると学習の展開的にはいいのかなと思うので、私はどちらかといえば東京書籍のほ
うを第1候補としたいと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、大島委員、お願いいたします。

大島委員

私も各委員からの意見に賛成なのですけれども、ちょっとつけ足すということになりま
すと、大日本は今お話が出ていますように、判は大きいだけでも、写真やイラストが
小さくて確かに判が大きいということのメリットが余り見られないということですかね。

学研とか大修館、東京書籍も見開きで2ページで1単元というレイアウトになっている
というところは大変いいと思います。

ただ、学研と大修館は、ちょっとやはり見やすいのはいいのですけれども、そのほかの
点で言うと、印象としてかたい印象で、ちょっと親しみやすさに欠けるかなと思います。

私は東京書籍がいいのではないかと思いますのですが、それはやはり紙面を見た感じが大変
親しみやすいように工夫されていて、まず左上のタイトルのところに背景にカラーで色づ
けがされていたり、それから、その下も横で区分する線が入っていたり、レイアウトがす
ごく見やすく親しみやすくなっているということと、各ところで「やってみよう」という
コーナーとか「考えてみよう」というコーナー、そういうのが必ずありまして、生徒が主
体的に考えたり課題に取り組んだりするという観点からの工夫がすごくあって、何か主体
的にやるという課題が示されているというところがいいのではないかと思います。

例えば15ページですと「メールへのアドバイスを考えよう」とか、17ページですと「物
語を比べて考えてみよう」とか、いろいろ生徒の興味を引くように課題が設定されている
という点がいいのかなというふうに思いまして、教科書をそんなに雑誌みたいにおもしろ
くきれいにする必要はないとは思うのですけれども、でも、せっかく開くのなら興味が持
てて見てきれいな感じというほうがいいのではないかという印象の点から東京書籍がよろ
しいかなと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では最後、私のほうからですけれども、保健体育は各学年とも年間時数が90単位から105単位ですか、増えました。でも多くは体育分野のほうにたしか多く配分されているので、保健の取り扱いはなかなか学校の現場では厳しいのかなというふうに思います。

4つの出版社から出ているわけですが、確かに大日本図書はちょっと判が大きくて、その大きい判が生かされていないというようなご意見がありましたけれども、私もそのように思います。

大修館は、これも比較的文章がわかりやすく書かれているのですけれども、ちょっと分量が少ないのかなというイメージがあります。

ただ、大修館でも「命の誕生」のところでは「絶え間なく受け継がれていく命」というような表現があって、また大日本図書では「生命の誕生」のところで「母から我が子増えのメッセージ、あなたも新しい命を生み出すことができる体になった」というような表現もあって、命ということの表現は、この2社ともよく書かれているかなと思います。

東京都内の公立の小・中学校にはAEDが全部配置されていますので、救急蘇生などは、やはり学校で教える場面も多いですし、もしかしたら外部講師である消防署の方をお呼びしてのような授業も展開されていると思いますけれども、4社とも比較的良好に救急蘇生の内容が書かれていて、東京書籍は実際にその内容が人物を使った写真が出ていて比較的亲近感を持ちやすいようなレイアウトになっているかと思いますが、どの4つの教科書とも心肺蘇生法についての取り上げ方はしっかりできているかなと。中学生にとって人を助けることができるということでは、その内容は必要なものではないかなと思います。

1点少し気になっているのは、傷を負ったときに、その手当をどうするか、かなり日常的に使う場面があるかと思うのですけれども、これについて詳細に書かれているのは学研の65ページですね。傷の手当て、例えば切り傷、刺し傷、擦り傷などは「Don't」と書いてあって、傷口に直接綿やちり紙を当てないとか、やってはいけないことがかなりしっかり書いてあって、現場では教えやすい教科書として評価されるのではないかなと思います。

また中野区でも新体力測定テストをやっていると思いますけれども、学研並びに東京書籍、巻末にかなり詳細に「新体力測定の仕方」というのが書いてあって、これも学校にとっては非常にわかりやすく、使いやすい教科書になっているように思います。

私も区内の中学校に出向いて性に関する指導を行うのですけれども、なかなか小学校からの連結を踏まえても授業単元が少ないのか、自分の体についての理解がまだまだ少ないように思うのですけれども、その内容については、どの教科書もしっかり書き込みができていると思います。

ただ、東京書籍のほうでは、先ほど大島委員が指摘されたように、性情報への対処などがかなり出ていました。学研でも「性情報への対処と責任ある行動」という形で書いてあるのですけれども、少し東京書籍のほう詳しく載っているように思います。

時間数がある程度限られているということになりますと、内容が充実しているほうがいいのか、ポイントがつかまれているほうが、この辺が難しい判断ではないかなと思いますけれども、そういった意味では単元ごとに比較的よく書かれているのは学研のほう書かれているかなというふうな気がいたしますが、学研並びに東京書籍とも教科書としてはすばらしい内容ではないかなというふうに思っております。

飛鳥馬委員が指摘されたように、導入のところで、特に学研のほうは保健編の開いてすぐに「生命の誕生」など非常にすばらしい写真で紹介されているというようなことで、子どもたちの興味を引く点からは多少学研のほうに分があるかなというふうに思いました。私からは以上であります。

ほかにご意見はございますか。

飛鳥馬委員

ちょっと山田委員長にお聞きしたいのですけれども、教科書の一番後ろのほうに体の仕組みの図があるんですよ、カラーの大きい、一番後ろ。

学研でいうと、一つは内臓のこういう、一番後ろの。もう一つ筋肉と骨がありますよね。学研のほうで見ると一番後ろの筋肉のところは半分前を向いて半分背中側の図なんですよ。そして右側の骨とあわせたときに、これがいいのかどうか、わかりやすいかどうかの話なのですが、よく見ればわかるのだと思うのですけれども。

東京書籍のほうはそうではなくて、筋肉はちゃんと全身、背中と前が並べて書いてある。その後ろを見ると、今度は骨格のほうは筋肉が別のページなので骨格とは横に並べて見ることができないというのがあるのですけれども、こういうのはあまり関係ないですか。

山田委員長

そうですね。どちらがわかりやすいかということでは、どちらも筋肉はどこについているかを見させるために前と後ろの表現があって、そのレイアウト上の違いだけで、どちら

もわかりやすくできているかなというふうに思います。

ただ、東京書籍の骨格のところでは横から見る写真が出ていたりするほうが脊柱が少し曲がって出ているよとかいうようなことはわかりやすいかもしれません。

飛鳥馬委員

あともう1点聞きたいのですけれども、山田委員長が最後におっしゃった教科書を見て読んでわかるみたいなどころ、それが大事かなという、説明がちゃんとできているとか。それにかかわることですけれども、特に性の問題のところ、性の感染症、エイズ、4ページぐらいありますが、その辺のところ、今思い出したのですが、前に性教育の専門家を呼んでお話を聞いたことがあるのですが、女性の方で自分のお子さん、高校生の子がいるのですけれども、そのときにちらっと言ったことは「もう高校生ぐらいになると、私が専門家でも性教育できませんよね。いろいろなことを言ってなかなか言いづらいし、大変だ。私のできることは、いい性教育の本を子どもの部屋にぽんと放っておいて見てくれるかどうかだ」という話をしたことがあるんですよ。それを思い出して、子どもはこういうものに興味があると思うので、読むのにどっちがいいか。読んでわかるというか、教えなくてもわかってもらえるような、そういう都合のいい、ないですかね。どっちがいいとか。読んでわかるとか。両方いいのだろうけれども。なかなか教え切れない。

山田委員長

実際には体の変化というのが小学校の4年生ぐらいから始まってきて、それはまさしく女の子には初経が始まってくるし、男の子は早い場合には精通が出てくるかどうかなのでしょうけれども、それで男女の体の違いを知るところで子どもたちは学んでくるのですね。それでいよいよ中学に入ってくると、今度は親になれる体になっている。女の子は子どもを宿すことができるし、男の子は子どもをつくることのできるというようなことを教えていく場面が出てくると思うのですね。

その中で私が学研の中で比較的これはいいなと思ったのは、Q&Aで「私は月経が何カ月もなかったり、月に2度あったりする。心配です」というようなクエスチョンが出てアンサーがあるのです。思春期の女の子にとって一番の関心事は月経の不調のことなんですね。

それから一方で男の子は何かというと、精子というのは毎日つくられていくのですけれども、たまって大丈夫なのかという疑問も出てくるんですね。それに学研は答えているのですね。これは私も性に関する指導の中では男の子に「精子は毎日つくられるけれども、

毎日排精しなくても大丈夫なんだよ」という言葉を使います。そういった中では学研のは、そういう書き込みがあるということではあります。

ただ、どちらの教科書も、この辺のことについてはかなり図をきちんと書いてありますので、先生方が使われるという立場からすると、どちらもそんなに遜色がないのかなというふうな気がしています。

あと性感染症の取り扱いについては、小学校のところでは血液感染という形でエイズを学んですけれども、今度中学生に入りますと、性感染症というくくりの中でエイズというのを勉強していきます。

ただ、性感染症ということの位置づけと、いわゆる感染症との位置づけは、なかなか先生方にとっては難しい内容ではないかなと思います。ことしから子宮頸がん予防ワクチンが入ってきましたけれども、HPVというもののウイルスについての記載は、どの教科書にもまだありません。この辺はこれからの課題になってくるかなと思いますけれども。

ということで、性に関する指導のところでは、どちらも使いやすい教科書になっているかなと思います。

飛鳥馬委員

わかりました。

山田委員長

あえて言えば、排卵、受精、着床あたりの図が大きくなっている学研などのほうが学校の先生方は使い勝手がいいかもしれません。

ほかに何かご意見ございますか。

(発言する者なし)

山田委員長

ではここで、ちょっと休憩します。

午後 1 時 2 8 分休憩

午後 1 時 3 0 分再開

山田委員長

それでは、会議を再開いたします。

そのほかにご発言はございませんか。

大島委員、お願いします。

大島委員

これまで議論がありましたように、学研のものも東京書籍のものも立派な教科書だと思っ
て、どちらでも適切なものだと思うのですけれども、もう一度ちょっとよく見てみますと、
性に関する、性教育というのでしょうか、それは非常に中学生にとっても大きな課題だど
思うのです。やはり学校といいますか、こういう保健の授業で扱う大きなテーマだと思っ
たのですけれども。

それで学研の教科書には特にQ&Aのコーナーが設けてありまして、一つは月経が何カ
月もなかったりという「月2回あったり、そういう不順なので心配です」という質問に対
してきちんと丁寧に答えているという説明がある。

それからもう一つ精子について「射精されないと、どうなるんでしょうか」というよう
なことについても、これもきちんとした説明があるという、こういうコーナーがありまし
て、こういうことをきちんと答えている教科書はちょっとほかには見当たらないと思っ
たのですけれども。

中学生ぐらいになると、やはり女の子、男の子それぞれここに書いてあるようなことと
いうのは気になる子が多いと思うのです。ですけれども、なかなか正面切って人に聞いたり
というのはちょっとしにくい事柄でもあるしということを考えますと、自分が気にして
いるようなことを教科書にきちんと説明がしてあるというのは生徒たちにとって非常に有
益なのではないかなということを考えますと、保健体育の教科書として、こういうことに
答えているというのは非常にいいことではないかなと。生徒に与えるのに価値があるのか
なというような気もいたしております。

山田委員長

ありがとうございました。

私のほうから一部訂正いたします。

HPVの記載がないという発言をしましたがけれども、大日本図書の性感染症の欄外に1
行だけ記載がございました。

ただ、子宮頸がん予防ワクチンの開発がされて今、実施されているわけですがけれども、
HPVの取り扱いについては今後少し補足された資料が出てくるものと考えられます。

また最近では、大学生に端を発した大麻の問題があって薬物乱用の害なんかも問題になっ
てくるかと思うのですけれども、この取り扱い、2つの教科書、東京書籍、学研ともかな
り記載はされているのですけれども、最近、特に東京などでは麻薬のMDMAみたいなも
のがかなり出ていると。その辺が詳しく載っているのは、学研のほうにその辺は詳しく記

載があるように思います。ということで、ありがとうございました。

委員の皆さんの意見をお伺いするとともに、教科書の採択基準からすると学研が最適であると思いますが、保健体育につきましては学研を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

ご異議ございませんので、保健体育は学研を採択候補とすることにいたします。ありがとうございました。

次に、技術についての協議を進めます。

初めに各委員それぞれからご意見をお伺いしたいと思います。

それでは、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

技術科のほうですが、技術科も非常にボリュームが多くて内容はたくさんありますので、情報とコンピューター、生活の技術、衣食住、家庭生活とたくさんあるのですけれども、もちろん子どもたちが学びやすいということですが、私個人的には、ものづくりのところをよく見てみたのですけれども、やはりほとんど遜色ない、変わらないという感じがするのですけれども、量的にいっても分量がそんなにパーセンテージでAが32%、東京書籍、教育図書。開隆堂はやや少なくて29%ということですが、開隆堂のほうはそれに比べてDの情報に関するところが多くなっているという感じがします。

量的にはそういうことですが、細かな内容で見ますと、全体的に開隆堂が構成がいいのかなと思ったりしているのですけれども、構成上では開隆堂のは、一つは基礎・基本を押さえることを重視しているということ。あと2番目に学習の流れがわかりやすいのかなと。ものづくりというのは材料、設計、製作、使用みたいな、そういうサイクルがわかりやすく示されているのかなという気がします。

あと実習のほうでも非常に多様な、木工から金工とか本当にいろいろなものがありますので、学校で何を選ぶかになると思うのですけれども、たくさん内容があります。

あと生活との関連では環境の問題、持続可能な社会、前から出ていますが、紙とかペットボトルのリサイクルの話が出てきたり、エネルギーの問題も、特に変換エネルギーですね。水力とか石油とかガスとか変換、それから動力の伝達が出てきますけれども、さらに生物、動物、水産、情報とたくさんあるのですけれども、これも非常に細かく書いてあり

まして、例えば私なんか身近ですけれども、野菜をつくるみたいなものもより細かく書いてあるので、それを見れば、すぐ家庭菜園ができるという感じの内容があります。動物とか水産業のほうはちょっと、東京の子どもたちには直接的にはかかわりは少ないと思うのですけれども、一通りは載っているということですね。

ということで、全部使いこなすのは大変なことかなと思いますが、開隆堂でどうかなと思います。

教育図書も東京書籍もほとんど変わらないと思うのですけれども、もしほかにいいものがあれば、そちらで結構ですけれども、私としては、開隆堂でどうかなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

次に、高木委員、お願いいたします。

高木委員

技術家庭の技術でございますが、東京書籍、教育図書、開隆堂出版3社ございます。

3社ともなかなかよくできた教科書だと思うのですが、特にこれからの時代は情報に関する部分、特に最近できてきた分野ですので、ここをきちんと子どもたちに説明できているのかなというところを観点にちょっと見てみました。

そうしますと、まず東京書籍ですが、191ページに基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの説明があるのですが、OSがハードウェアや応用ソフトウェア、ファイルの管理などを行うように見えてしまって学習指導要領上はこれでいいと思うのですが、厳密に言うとハードを管理する場合は信号を介するので、厳密に言うと、ちょっと違うのかなと。

あと次のページ、198ページでインターネットの仕組み、197ページでLANとWAN、ローカルエリアネットワークとワイドエリアネットワークの説明があるのですが、これだと小学校の中がローカルエリアネットワークで、ほかがつながっているのがWANだというのはちょっとイメージしづらいですね。

開隆堂の187ページの説明ですと、上のほうに学校内のネットワークLANというのが取り出してちゃんと書かれていて、そこが学校間がつながるのはWAN、ワイドエリアネットワークだということがイメージしやすいので、ここを見ると開隆堂のほうの方がより正確なのかなと。

ただ、ここら辺はちょっと新しい分野ですし、細かくし過ぎるとわかりにくくなる部分

もあるので、どこも特段、開隆堂が抜きんでて正確で正しいというわけではないのですが、若干、東京書籍のほうはそこら辺はあまりはっきり書かれていなくて、ちょっとイメージしづらいので、情報に関しての割合も開隆堂が35%、教育図書が24.6%、東京書籍が28.0%という形では、私の好みというか、情報のウエートが結構、技術分野は今後大きくなってくるかなと思いますので、そうすると、そこが一番充実している開隆堂が個人的には第一候補なのですが、個人的にはなので、ほかの教科書も十分、技術家庭で教えられる教科書だと思います。以上でございます。

山田委員長

ありがとうございました。

では、大島委員、お願いいたします。

大島委員

私も3社の教科書のどれも適切なものであると思いますけれども、私は高木委員とはちょっと違うところに興味があって、導入部分というか、一番初めの部分に関心があって、それを見比べてみたのですけれども、導入のところで教育図書のものは各分野の内容についての説明はあるのですけれども、技術という教科の位置づけ、それから社会とか未来、地域との関係というのは大きい視野でのガイダンスが全くなかったんですね。

東京書籍と開隆堂は、そういう大きい視野で見た技術とか技術の発達とか、そういうことのガイダンスが充実してきちんとあった。

東京書籍ですと、技術と発達とか技術と環境とか、そういう観点からきちんと過去の歴史的な技術の発達のことも書いてある。

開隆堂は、技術と生活とか社会における技術の役割という観点から、技術と産業、持続可能な社会との共生というようなところまで、非常に広い視野での技術という科目に関するガイダンスがなされている。技術というのを学ぶ意義というのが感じられたというところで、このガイダンスのところが非常に開隆堂はすばらしいなと思いました。

やはり日本は資源がないと言われてはいますがけれども、これだけ発展したのは技術の力だというふうにももちろん思いますし、やはり日本の技術というのはすばらしいし、また、これからも技術を磨いていかなければいけない。日本が発達し、生き残るには、やはり技術だという点からしまして、実際に生徒ができるのは、木材を切って本箱をつくるとか、そういうごく小さなことしか実際にはできないかもしれないけれども、でも、この技術というのを学ぶ意義というのは、こういうところにあるのだというようなところまで視点を

持っていれば、この科目の意義が非常に大きくなると思うので、そういう点で開隆堂が
いいかなということと、安全についての記載ですけれども、教育図書では安全についてあ
まり触れていないのです。

東京書籍では「CDのラックづくり」というところで、東京書籍は安全について一番充
実して記載があります。初めの4ページから5ページのところでまとめて安全についての
項目がありますし、そのほか随所に触れてあります。

開隆堂は、まとまっているページはないのですけれども、各所で安全についての注意と
いうのが出てきますので、非常に安全についても配慮があるというふうに思いました。

教育図書は28ページから「CDラックをつくろう」というコーナーがあるのですけれど
も、ここでも安全についての注意みたいなのが全然書いていないということもあります。

それから生物の育成という点ですけれども、教育図書は、いきなり「楽しい野菜づくり
をしましょう」ということで方法の紹介が入っているのですけれども、ほかの2社は生活
とか生物育成ということについての一般的な説明があって、そこから具体的な方法論とい
うふうに入っているということで、生物を育てる技術と生活とのかかわりという視点での
説明が、あとの2社はあるというところがいい。

さらに開隆堂は、生物育成についてのサイクルについての説明もあるという点がいいの
ではないかと思います。

それから情報モラルという点についてですけれども、教育図書は202ページにちょっと
出ているのですけれども、具体例が少ないと思われます。インターネットのことがちょっ
と出ているのですけれども、具体例が少ない。

東京図書も4ページであるのですけれども、インターネットの例で若干なじみにくい感
じがしました。

開隆堂のものは見開きで4ページでちゃんと説明がありまして、取り上げているものも
携帯とかメールについてのモラルの話で、こちらのほうがなじみやすいし、例としていい
のでないかなというふうに思いました。

そんなような以上の点から、東京書籍のものも大変いい教科書だと思うのですが、開隆
堂のほうが、どちらかという若干いいかなというふうに思っております。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、教育長、お願いいたします。

教育長

技術ですけれども、学習指導要領改定の趣旨が、生活に必要な衣食住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題解決するために工夫し、創造できる能力と実践的な態度を一層重視するということと、他の教科等との連携を図り、子どもたちが自立的に生きる基礎を養うことを特に重視するということになっています。

こうしたことを踏まえて、東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社から教科書が出てまして、今お2人の委員がおっしゃったように、この3社を見比べてみますと、やはり教育図書はちょっと使いにくいかなというような印象があります。構成として単元の目当てというのが見出しにくく、また学習のまとめというのは単元ごとにあるのですけれども、どのような活用の仕方があるかというような提案がないというふうに思っています。それから作業などに当たっての安全確認の視点が弱いということと、情報に関するページが少しほかの2社に比べて少ないということです。

そのことを踏まえて東京書籍か開隆堂ということになるのですけれども、情報が充実をしていたり、環境への視点ということ、持続可能な社会という視点で言うと、開隆堂が充実をしていて、こちらもいいかなと思うのですけれども、私はどちらでもいいのですけれども、あえて言えば東京書籍のほうが、目当てですとか単元の振り返りということが充実をしていたり、それから安全ということについて、今、大島委員もおっしゃったように、まとめて解説をしてあるページとページごとに一つのページで2カ所も3カ所も安全という注意書きがあるというように、ページごとにほとんど安全というコラムといいますか、注意事項があるということでは、経験が少し足りない教員でありますとか、時間講師などがこれから教えていくということを考えると、そうしたことの点では東京書籍のほうが使いやすいのではないかなというふうに思っていますが、開隆堂もすぐれた教科書だというふうに思っています。

山田委員長

ありがとうございました。

では、最後に私のほうからでございますが、どの教科書も構成とすると4段階の構成になっていると思います。材料と加工に関する技術、エネルギー変換に関する技術、生物育成に関する技術、情報に関する技術、この4つの段落の組み合わせでバランスよく3社の教科書会社が出版されています。

ただ、先ほど高木委員からご発言がありましたように、最近のものづくりだけではなくて情報に関するということからいきますと、教育図書は少し情報に関する技術のところの記載内容が少なく、また評価が少ししにくいような場面があります。

一方で開隆堂、東京書籍ともに情報に関する技術に関しては詳しく述べられていますけれども、先ほど高木委員もおっしゃったように、まとめ方としては開隆堂のほうが少しすぐれているかなと。また、今の中学生ぐらいになりますと、多くの子どもたちは携帯電話を持っているかと思しますので、そういったものの取り上げ方については開隆堂のほう少しすぐれているかなと思います。

大島委員がご発言されたように、日本はものづくりの国ですから、この技術家庭の技術というのは大切な教科ではないかと思えますけれども、やはり何か技術を習得していく意味では安全というものは非常に大切だと思います。

その安全に関する事項については、教育図書はその辺が少し意識が弱いかなと思えますが、開隆堂、東京書籍とも安全に関する取り上げ方は非常によくできているかなというふうに思います。

飛鳥馬委員がご指摘になったかもしれませんが、教科書を導入するときの見開きのところですけども、東京書籍は、最初は開いていきますと実習の安全から入るんですね。

一方で開隆堂は「さあ、技術の扉を開こう」というところで、何かそういうわくわくするようなレイアウトで、導入としては「日本でどんな技術が今あるんですか」とか「技術ってすばらしい。私たちの生活の中に技術がどんなに役立てられているか。特に日本が今まで培ってきた電化製品がこんなふうに発展してきたんだよ」とか、資源の有効利用、持続可能な社会と共生、そういうような形で子どもたちにとってわくわくするような内容のレイアウトで導入を図られているという点は少し開隆堂のほう子どもたちが技術に取っかかるのにわかりやすく配列されているかなと思います。

いずれにしても1～2年生では週に2時間、3年生になりますと週に1時間という単位ですので、そういったバランスがよくて子どもたちの安全に配慮された教科書ということの取り上げ方が必要ではないかなというふうに思っております。

そういった意味で開隆堂もしくは東京書籍の2社がすぐれているように感じました。

ほかにご意見ございますでしょうか。

飛鳥馬委員

今の情報の分野の話がちょっとたくさん出ていますけれども、選定調査委員会の資料を見ていると、開隆堂のところにはあまり情報の評価が出ていないのですけれども、教育図書のところには「情報モラルの分量が少ない」と書いてありますね。やはり少ないと思いますね。

東京書籍のところには「情報モラルの育成に配慮している」という表現があるんですね。これは選定調査委員会の意見ですが、学校の意見のほうを見ると、学校の意見のほうに開隆堂のところに「情報モラルに重点を置き、社会のニーズにに応じている」という表現があるんですね。だから見方によって見逃すこともあるかもしれませんが、どちらにもとれそうなところがあるのではないかなと思います。

もう1点は、学校の意見、これは高木委員の意見に近いのかちょっとわかりませんが、東京書籍は第4章情報のところのアプリケーションの使用についての説明がやや不親切だというふうに思うかどうか。これはちょっとあまり読み込んでいない。高木委員、どうですか。そういう学校の意見がありますけれども。

高木委員

先ほどちょっと言ったように、厳密に言うと学習指導要領の配慮は問題ないのですけれども、若干ちょっと細かく言うと、例えば先ほどちょっと言ったLANとWANの違いというのは、なかなかちょっとイメージしづらいような図だったりというのがあるので、ただ、これも細かくしちゃうと逆にコンピューターが嫌いになっちゃうので難しいところなんですよね。情報のところは開隆堂がいいかなという形なので。

飛鳥馬委員

現場の先生のものづくりのところの意見を見てみると「ともかく木工とか金工とかプラスチックみたいなものも含めていろいろな道具の使い方、鉋も含めていっぱい書いてあるけれども、中学校ではこんなあまりできない。大人になって家庭で何か日曜大工でもやっっていけば役立つかもしれないけれども」と、そういう意見が書いてありましたね。なかなか全部やりきれないという意味のことが書いてあるんだけれども。でも、いっぱい載っているというふうに書いてあります。ということで、一応学校の意見はこうですが。

山田委員長

開隆堂の意見が比較的多いかと思うのですけれども、教育長、いかがでしょうか。

教育長

私もあえていえば東京書籍ということで、開隆堂も十分すぐれた教科書だと思います。

山田委員長

わかりました。

ほかにご意見ございますか。

(発言する者なし)

山田委員長

ありがとうございました。委員の皆さんの意見をお伺いするとともに、教科書採択基準からすると、技術につきましても開隆堂が最適であると思いますので、開隆堂を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

ご異議ございませんので、技術は開隆堂を採択候補とすることにいたします。ありがとうございました。

続きまして、技術家庭の家庭につきましても協議を進めたいと思います。

初めに各委員それぞれからご意見をお伺いしたいと思います。

それでは、高木委員からお願いいたします。

高木委員

技術家庭、家庭分野につきましても、技術分野と同じように開隆堂、教育図書、東京書籍の3社から出ているところでございます。

なかなかこれも難しいところでございますが、まず、やはり技術家庭というとなんとも調理が華やかなかなと個人的には思っております。また最近、弁当男子なんていうのもはやっていますので、うちの次男も小学校3年生ですが、家で調理をするのが楽しみなので、そのところを見ていきますと、若干教育図書は一つ当たりの分量が半ページと少なくて雑誌のレシピ集みたいな形になっているので、ちょっと中学生にとっては不親切なかなと。たくさん載せることではないと思いますので。

東京書籍と開隆堂は、おおむね見開きぐらいでメインのしょうが焼きとかハンバーグとかシチューとか入ってきているのですが、ほとんど料理をやらない私が見ていると、例えば、うちはきのうも豚肉のしょうが焼きだったのですが、開隆堂のほうがご飯、スープ、しょうが焼き、副菜という形で副菜の青菜のごま和え、わかめスープとか非常に活用しやすいような展開になっていますし、またハンバーグですとコラムが出ていて一昔前のテレビ番組みたいな形で肉の銘柄が書いてあって、今の中学生は知らないかもしれません

が、非常に興味を引くような展開になっているので、開隆堂がいいのではないのかなと。

あとちょっとおもしろいなと思いましたのは、服の購入の仕方というので、教育図書がかなり「自立した衣生活のために」で150ページからあるのですが、「自分らしさを表現しよう」とか、和服ですごく派手な例とかいろいろ載せて展開をしているのですが、こんなには要らないのではないのかなという気がします。

あと152ページ、154ページでT P Oという説明をしているのですが、これはたしか和製英語で、「タイム・プレイス・オケーション」で、厳密にタイムというのは、例えば結婚式とかでも昼間だったらモーニングだけれども、夜だったらタキシードだよと、そういうもの。場所だけではないんですね。その要素がこのT P Oの説明には入っていないので、厳密に言うともとの概念はあまり生かされていないなど。

東京書籍は服の購入の仕方で106ページ、107ページで必要な洋服の選択、目的、予算を決める、情報収集して購入場所を選ぶ、商品を選ぶ、選んだ衣服を試着する、決定して購入する、評価、反省する。洋服の購入でP D C Aはやらなくても。正しいのですけれども、もっと洋服を買うのは楽しいことだと思うので、正しいんだけど、ちょっとどうなのかな。ここまでシステムチックにしなくてもいいのではないのかなという気がします。

特色があっていいと思うのですが、ここら辺は開隆堂ぐらいの「自分に合わせて」とか、あとタグの見方とか、こういうのが大きく載っていて、例えば「この表示だったらドライクリーニングだよ」というのが非常に大きく出ていてわかりやすいので、ほかのももちろん出ているのですが、個人的な家庭科初心者からいくと開隆堂がわかりやすいかなということなのですが、東京書籍も甲乙つけがたいというのが私の意見でございます。

山田委員長

ありがとうございました。

では、大島委員、お願いいたします。

大島委員

私はちょっと技術のときに言ったのと同じようなことを言って恐縮なのですが、一番初めのガイダンス部分を家庭科のほうでも見てみますと、教育図書のもは2ページのみで、あまり家庭科の「学ぶとは」とか「学ぶ意義」とか、そういうような視点はほとんどないということです。

それに比べて東京書籍のものはガイダンスが丁寧にありまして、環境とか食育とかということも含めて、みんなが暮らしやすい社会、ユニバーサルデザインとかそういう現代的

な課題のことまで含めて家庭科の意義ということに触れているのが大変いいのではないか。

その点开隆堂のほうは、さらに視覚的に見ても楽しくていいのではないかと思うわけです。ガイダンスのところで日本と外国の家の中の風景とか「あしたは私がシェフ」とか言って大きく料理が出ていて料理して楽しそうだなというイメージとか、全体的に楽しそうなくわくわくする感じがあるのがガイダンスとしていいのではないかと思ったことが一つです。それから目次の一番上に「見通す」という囲みがありまして、家庭分野を見通すというA分野、B分野、C分野とかというようなことで分野ごとに全体を見通すページがあって何を学ぶかがわかるようになっているページがあるというのがガイダンスとしてもいいのではないかというふうに思いました。

それから伝統的な食事については3社とも載っているのですけれども、教育図書のは、139ページにあるのですけれども、郷土料理の紹介があるので、写真がすごくぎゅっと詰まっています見にくい感じがしました。142ページにお雑煮があるので、イラストだけなので、イメージしにくいというのはちょっと難点かなと思いました。

東京書籍は36ページ以下に食文化、幼児食についてのコーナーがありますし、78ページには郷土料理が出てきます。

開隆堂は137ページにお雑煮の絵もあって写真入りでよくわかりますし、郷土料理なんかの紹介もあります。

あとしょうが焼き、例えばお料理のコーナーですけれども、教育図書については、しょうが焼きに限らずたくさんの料理のレシピが出てくるのですけれども、高木委員のお話にもあったように、一つ一つが半ページでいっぱい出ているのですけれども、一つ一つの説明の量が少なく丁寧ではないし、盛り合わせの例なんかも出てこないから、やはり数が多いよりも、少なくいいからやはり実際につくるところまでイメージしていないと意味がないのではないかなと思います。

東京書籍と開隆堂は、その点、数は少ないのですけれども、一つずつ見開き2ページで丁寧に説明しているというところがいいと思いますし、例えばしょうが焼きの作り方もあるのですけれども、東京書籍のほうはつけ合わせの料理は出ていないのですが、開隆堂はつけ合わせ料理も出ていて食卓のその日の一つの食事例というようなふうに見えるというようなのが実用的でいいのではないかと思います。

それから構成の点ですけれども、文部科学省では子ども・幼児の遊びとか子どもに関する分野を初めにやることになっているところ、東京書籍は子ども・幼児についての項目が

後に出てくる。開隆堂は一番初めに出てくるので、指導要領との関係では初めに出てきたほうがいいのかなど思ったりしています。

それから言語活動の点で教育図書も「まとめよう」とか「やってみよう」というコーナーがあるのですけれども、それ以上具体的な指示がないという点です。

東京書籍は、例えば188ページ「観察しよう」というようなことでの指示といたしますか、そういうコーナーはあるのですけれども、自分がそれに対してやることについてのガイドというのがそれ以上ない。

開隆堂は、例えば子どもとのふれ合い体験について、その後で「では、こういうふうにしてみよう」という言語活動について丁寧なガイドがついているというようなことで、言語活動という点からして開隆堂が一番丁寧なガイドがされているのかなというような気がします。

それで総合しまして東京書籍の教科書でも全く遜色なくいいと思うのですが、どちらかというと開隆堂のほうが若干楽しそうな感じでいいかなというところですか。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、教育長、お願いいたします。

教育長

学習指導要領の改定の趣旨は先ほどの技術のところと同じものに含まれています。これを踏まえて3社の教科書を比べてみました。

ほかの委員の方々からもご指摘がありましたように、私も教育図書については教科書としてなかなか使いにくいのではないなという印象を持ちました。

一つは、今、大島委員からも話がありましたように、伝統食の掲載が非常に数だけ多ければいいのですかということなのですけれども、すごく反対に数が多いだけ見にくくなっているんですね。そのほかにも同じような傾向が、教育図書の80ページから81ページ、82ページは折り込みになるのですけれども、「基礎食品群と食品群別摂取の目安」というのがあって、これもまた食材がすごくいっぱい並んでいて小さくて見にくい。後でまたほかのと比べていただくとわかるのですけれども、ほかの2社は割とすっきりしている掲載になっていて同じ傾向があるということで、あと料理のレシピ集ではありませんけれども、料理の作り方が非常に数は多いのですけれども、小さくてわかりにくいということで、言い方は語弊があるかもしれないのですけれども、反対に何か食べ物を大事にしないで、そう

いうふうに扱っているみたいな印象を持ちかねないかなというふうにも思いました。

それから導入のところで「年中行事と私たちの暮らし」と、これも折り込みがあるのですけれども、これは個人的な主観になってしまうかもしれませんけれども、例えば2月にバレンタインデーがあったり3月にホワイトデーがあったり、裏面に行って10月にハロウィーンがあるということで、説明には「日本の伝統的な年中行事だけではなく、ハロウィーンのように最近定着したものも含めている」と書いてあるのですけれども、そうすると何かこれを書いている趣旨がわかりにくくて、バレンタインデーの上に節分があって、その下にお彼岸があるというのは。もし、それを説明するのであれば、もうちょっと丁寧に注釈をすとか、あるいは伝統行事だけに編集し直すという配慮もあっていいのかなというふうに思いました。

それ以外にも目次がほかの教科書に比べると見にくいとか、導入があまりなくて単元にすぐ入っている。あと紙面についても、ちょっと色も薄目で平板であるような印象がありました。ですので、ちょっと扱いにくいのではないかなというふうに思っています。

あと残った開隆堂と東京書籍は、どちらも甲乙つけがたいところがあります。

あえてどちらをとということであれば、私は開隆堂のほうを推薦したいなというふうに思っているのですけれども、その理由ですけれども、例えば93ページ、開隆堂の。いろいろな加工食品というのがあって、今は、それこそさっきのお話、しょうが焼きとかの話ではないですが、料理をつくるということもとても大事だし、それは尊重していかなければいけないのですけれども、加工食品が非常に出回っていて、それをうまく活用するということも今の子どもたちには生活には合っているのではないかなということと、それから93ページのところに「保存の原理」というのがあって食品を保存するということも丁寧に書かれていて、同じ取り扱いほかの教育図書や東京書籍でもしているのですけれども、開隆堂が一番丁寧であるということで、特に加工食品についてここまではなかなかほかのところは記述をしていないので、そういう意味でも今の子どもたちに合った生活の仕方を提案できているのではないかなというふうに思っていて、強いて言うと開隆堂をとということです。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

家庭科も、さっきの技術科のように内容がA家族・家庭と子どもの成長、B食生活と自立、Cは住生活と自立、D身近な消費生活とありますが、私はどちらかというところAの家庭生活とか家族というところがちゃんと書いてほしいなと思っていて、それは改定の狙い、あるいは選定のポイントのところにあります。少子高齢化で、今度の災害のこともありますが、家族とのきずな等が一層見直される時代なんだろうと思うんですね。そのときに家族の形もどんどん変わってしまっていて、核家族が当たり前で、そういう時代ですので、最初の家庭生活ではともに生きるということで子どもから親まで含めた、そういう教育ができるというなと思っています。

それから、もう一つ重点的に見たのは消費生活のところですけども、消費生活と環境ということで、Bの食生活はちゃんと書かれて当たり前と。あとCの衣とか住、これはなかなか工夫といっても難しいところがあるなと思うんですけども。

最初の家族・家庭生活のところでは家族と子どもの成長とか、あるいは自分も含めて自分が成長していく過程とか、あと幼児と一緒に生活する、幼児を理解すると。保育実習というのが時々話題に上りますけれども、そういうものを含めたともに暮らす家族・家庭というものがしっかり関わっていくところがいいと思います。これは開隆堂がよく書かれているなと思います。

それから消費生活のところも今、大人になったり、お年寄りになったとしてもいろいろ問題があると思いますので、悪質商法、悪徳と一時言っていましたけれども、悪質商法とか、あるいはいろいろな勧誘とか通信販売とか、若い人も結構それに巻き込まれるというようなこともありますので、そういうこともしっかり教える教科書、それと関連して消費生活、環境を含めてですけども、我々の、特に衣が多いと思うんですけども、着るほうですね。リサイクルとかリフォーム、リユースとか、あと今クールビズとかやっていますけれども、ウォームビズとか。そういうもので、やはり子どもに中学生のうちからしっかり教えていく必要があるなと。

これも比較的開隆堂が押さえていると思うんですね。Bの食生活のほうは、調理というのは本当に、これだけどの教科書を見てやってもちゃんとできるようになれば1人になっても困らない。大人になっても調理の料理本になるぐらいの内容だと思いますので、これもよくできた、ほかにも比べていいなと思いますので、ということでともに生きるとか、あるいは消費生活、環境というようにこというと、開隆堂がいいなと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では私からでございますけれども、家庭科では家庭と子どもの成長、食生活、衣、それから住生活、消費生活という形の單元だと思っておりますけれども、大島委員がご発言されましたように、最初に食生活が出てきているのは東京書籍、ほかの教科書は家族・家庭と子どもの成長ということになっています。特に幼児とのふれあいのかかわり方の工夫などについて各教科書ともかなりのページを割いて丁寧に記載していますけれども、ちょっと教育図書はその流れが少しつかみにくいのかなと思いますけれども、開隆堂などは後で自分たちが振り返って勉強するような素材としてのレポートにまとめようというようなことでの発展的なところもとらえられている。

少し東京書籍がそのまとめが弱いかなと。

ただ、私は幼児とのふれあい、こんなにページ数を割かなくてもいいかなと。実際には中野の子どもたちが実際に保育園などで体験しているということもありますので、ここまで記載することはどうなのかなという疑問は持っております。

ただ、やはり今の日本の子どもたちの現状を見ると、食生活というのは非常に大切だと思います。

そういった中で配分的には東京書籍だとか開隆堂は、その分量は比較的豊富にとらえられているかなというふうに思います。

例えば今問題になっております肉の調理のことなんかを少し見てみますと、東京書籍の「一口メモ」にはこんな記載があるのですね。「2004年12月1日以降に食肉処理された牛肉は個体識別番号の表示が義務づけられています」。かなり丁寧に書いてあるかなと思います。

一方、開隆堂では109ページ以降で、すごいですね、肉の選び方まで書いてあるのですね。牛肉とか豚肉、鶏肉、写真できちんと表示されていて、買うときに、これはサーロインなのかスネなのかロースなのか、この辺まで丁寧に書いてある。肉の選び方も「しっかりと弾力があって、もちろん特異なにおい、異臭がない」。そうなのですけれども、そういったことまで書いてある。また開隆堂では衛生的な扱いですね。「生の肉を扱った包丁、まな板、菜箸、手などは細菌がついていることがあります」。この辺は感染予防の観点からきちんとした書き込みがあるかなというふうに感じました。

教育図書は、いろいろお話がありましたけれども、「年中行事と私たちの暮らし」が巻頭に出ているのですが、実際に日本の子どもたちはこんな状態なのではないでしょうか。伝統がどこまで伝統だというのはわからなくて、このぐらい忙しいイベントの中で暮らし

ているということは評価されてもいいのかなと思っています。

もう一つ、今夏に街に出ますと、浴衣を着ている若い方たちが多いのですけれども、どの3社とも「浴衣の着方」というのが書いてあるんですね。これにはちょっと驚きました。

教育図書には帯の締め方も書いてあるんですね。早くこれを覚えておけば浴衣は着られるかなと思うのですけれども、そういった中で教育図書のそういった配慮がなされているかなというふうに感じました。

もう一つは、この震災の中で節電とか循環型社会を目指してということになるかと思うのですけれども、例えば東京書籍では環境アクションプラン「水筒を持ち歩こう」とか「洗濯に風呂の残り湯を再利用しよう」というようなことが書いてあったりします。

一方、開隆堂では環境に配慮した生活の中で江戸のエコロジーも、これは教育図書も入れているのですけれども、「履物は修理され、長く使われた」とか「江戸では生ごみは集められ、肥料として利用された」とか、こういった歴史的なところの連携もきちんと書かれている。それから家庭でできるエコの点では「冷蔵庫は物を詰め過ぎない」。衣生活のほうでは「乾燥機でなく、天日で干す。風呂は冷めないうちに家族が続けて入る」とか、そういった記載もあって、例えばリデュース、リユース、リサイクルはどの教科書も書いてあるのですけれども、リフューズ、リペアまで書いてあるのは開隆堂だと思います。

そういった中で総合的に見ますと開隆堂が少し抜けているのかなと。また技術家庭との関係もあって調査研究結果のほうからは、できれば技術と家庭は同じ出版社のほうを使いやすいのではないかというご提言もありましたので、開隆堂でよろしいのではないかなと思います。

ほかにご発言はございますでしょうか。

(発言する者なし)

山田委員長

ありがとうございました。

委員の皆さんの意見をお伺いするとともに、教科書採択基準からすると開隆堂が最適であると思いますので、家庭につきましては開隆堂を採択候補とすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

ご異議ございませんので、家庭は開隆堂を採択候補とすることといたします。ありがと

うございました。

では、もう少し頑張っていきます。最後の教科になります。次に英語についての協議を進めます。

初めに、各委員それぞれからご意見を伺いたいと思います。

初めに、大島委員からお願いいたします。

大島委員

英語につきましては6社から出ております。各社ともそれぞれの工夫もありますし、教科書として適切でないというようなものはありませんで、どれを使っても適切ではあるとは思いますが、6社のうち、まず開隆堂のサンシャインだけが本の大きさがちょっと大きくなっております。これがどうかという評価は分かれると思うのですが、私としては英語の教科書としてはちょっと大きいのは使いづらいのではないかと。中を見ても割と余白が多かったりして、判が大きいことがそんなにメリットになっていないような感じは受けました。

それで内容的な話でいうと、ちょっと中身的に分量が多いということと、ちょっと内容が難しいのではないかという研究会とか学校からのご意見などもあるようです。

それから光村のコロンブスでは、これも量が多いということと、基礎・基本の習得量が少ないのではないか、文法の項目が弱いのではないかというような意見もあるようです。

それからワンワールド、教育出版につきましては、写真がすごく大きくて目立って英語が両端に押しやられているみたいな印象のレイアウトになっていまして、英語のところがむしろ行間も詰まっていまして、ちょっと見にくいということと、それから全体の構成がちょっとつかみにくい。基礎・基本の習得については「本だけではちょっと不安で、担当者の力量にゆだねられる部分が多い」というような調査研究会のご意見もありますので、まずちょっとその3社は一応除外しまして、あとの3社について次に見ていきたいと思うのですが、三省堂のニュークラウンと学校図書のとータルイングリッシュ、東京書籍のニューホライズンですが、私は2年生のところを各社比較してみました。

ニュークラウンについては比較的歴史系の記事が多いようですが、文法のまとめが非常に充実しているというところで、文法については随所にまとめのページもありますし、それからイラストと写真とか文字のバランスがなかなかいいという点があります。

ただ、難しい単語が出てくるというのと新しく出てくる単語がすごく多くて、ちょっと知識量として詰め込み過ぎという印象です。それと「トライ」というような課題の量がす

ごく多い。各レッスンごとの進度がすごく早いということで、つまり全体的に英語がすごく好きだったり英語が得意な生徒には、どんどん自分でいろいろなことを課題もやったりして、単語もたくさん覚えたりということで適しているのかもしれないけれども、公立でいろいろなレベルの生徒がいるというところを考えると、ちょっと難易度が難しいのではないかという印象です。

トータルイングリッシュですけれども、比較的社会系の記事が多いようですけれども、会話文とか手紙文なんかも充実していると思います。

ただ、トータルの場合は写真、イラストがすごく目立つんですね。写真やイラストが出てくる分量が多いし、また色彩的にも色がすごく色彩豊富に出てくるので、ページを開いたときにそういう写真、イラスト、色が目に入ってきちゃって英文があまり目立たない、英文が入ってこないというのがちょっと教科書としては難点かなという印象です。

それと単語の量も割と少な目で、比較的3つの中では難易度的にやさしいかなと。

ただ、文法についての説明とかまとめとか、それがちょっと弱い。各項目ごとに、ここでは何の文法を習うのかというのが体系的なことがわからないというところがあります。それがちょっと英語の学習としては、特にいずれ高校入試とかということも考えますと、体系的に学習が把握できないというのがちょっと難点かなという感じがします。

ニューホライズンは国際系の記事が割と多いという特徴があると思うのですが、まず基本文というのが各項目のところでありまして、基本文ということで、ここでどういう構文を覚えるんだということがはっきり示されているというところと、あと巻末のほうに2年の基本文というのがまたまとめてありまして、さらにプラス基本表現というのもあるので、あとで振り返ってみるときに、こういうのを活用して、もう一回基本文の復習などができるといのが大変いいのではないかとということと、各単元とか項目のところでは文法のまとめがありますので、しっかり文法を押さえられるのではないかとという点。

あと新しく出てくる単語ですけれども、ちょっと言い忘れましたが、さっきのトータルイングリッシュは比較的単語の数も少ないようです。

ニューホライズンは若干多いかなという気もしますが、ニュークラウンに比べると多くないというような印象です。若干かたい話題が多いので、その点生徒の興味という点からしてどうなのかなという疑問もなくはないのですが、でも、やはり文法がきちんと押さえられる、それから基本文がきちんと押さえられる。それから写真とかイラストがそんなにしつこく出ていないという点がいいのではないかとということで、私とし

ては東京書籍のニューホライズンが適切ではないかというふうに思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、教育長、お願いいたします。

教育長

英語ですけれども、学習指導要領の改定の趣旨で、みずからの考えなどを相手に伝えるための発信力やコミュニケーションの中での文構造を活用する力を充実する視点から、話すこと、書くことを通じて発信することが可能になるよう、聞く、話す、読む、書くの4技能の充実を図るということ、それから外国語を発信する内容の充実を図る観点を踏まえて4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善する、それから小学校でも入ったということで、小学校での外国語活動を通じてコミュニケーションに対する積極的な態度の素地が育成されるようにというようなことで改定がなされています。

これに基づいて6社から用意をされているわけですが、ざっと見させていただいて、光村については、なかなか单元ごとの目当てが持ちにくいという印象がありました。それから練習問題や振り返りの素材が少ないということと会話が非常に多い、文章が少ないというイメージがありました。

また教育出版については、物語になかなか深みがなかったり、4領域のバランスには配慮してありますけれども、子どもたちに興味を持てるような編集ではない。色やレイアウト、絵というのが印象が薄いというのがありました。あと補助教材が少ないのではないかなという感想です。

開隆堂は、今、大島委員がおっしゃったように、判が大きいのですけれども、その分かなり余白が多いようなイメージで、調査研究会からは本文に書き込むようなことで考えているのではないかなというようなこともあるのですけれども、書くということを大事にしようのも眼目でありますので、私は書くということをもっと大事にしたほうがいいのではないかなと思いました。

それから本文の字は大きいのですけれども、それ以外の文字が小さいので、ちょっと使いづらいなと思いました。

それから三省堂ですけれども、付録が充実していて取り上げている内容が豊富なのですが、選定調査委員会で指摘があったように「GET」というのと「USE」という2つの、基本的な押さえは「GET」で、それから「USE」というのが活用というよう

なことだと思うのですけれども、ちょっとわかりにくく、あと文字も小さいのではないかなという印象でした。

そうなるとう東京書籍か学校図書が私としてはすぐれているかな、使いやすいかなというふうに思ったのです。

両方とも、とても教材が豊富で4領域のバランスもいいということと、付録が少ないのですけれども、その分本編が充実をしていて、初めてといいますか、英語学習を本格的にする中学生にとっては本編の充実というほうが使いやすいのではないかと思いました。

そのうち両者どちらかということですが、小学校からの連続性ということを考えると、一般動詞から始まる学校図書のほうが、これからの言語活動の活用ということを考えていくとバラエティーが広がるのではないかなというふうに思ひまして、学校図書でどうかというふうに思っています。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、飛鳥馬委員、お願いします。

飛鳥馬委員

いろいろ特色のある教科書で、私も、教科書会社から先に言ってしまうと、東京書籍、学校図書、三省堂のあたりかなと思っていますが、東京書籍は、最初のほうのウォームアップのところに出てくるものが小学校の外国語活動とどうつながっていくかというところがどうかなという気がするのですけれども、負担にならないかという気もするのですが、最初から中学校の先生が一生懸命やられちゃうと負担になるかなというふうな気もしないではないのですけれども、やり方ですので、それは大丈夫かなという気もします。

あと東京書籍のほうは割といろいろな世界の国々の内容、文化といいますか、生活といいますか、子どもの様子等がたくさん紹介されていて身近なのかなと思うのですね。

ほかのと比べると、三省堂のほうはむしろ日本の文化のことが多く出てくるのかなという気がするのですけれども、外国のもあります、日本の文化とのかかわり。

それから子どもの日常生活に対して、話題性というか、日常とのつながりでいうと、これは東京書籍も三省堂もあまり変わりなく、いろいろなところで子どもの生活を題にして出てくるだろうと思うのですね。

それから、動詞のところですが、これは両方ともb e動詞から入って行って、それでいいのかなという気もします。

それからあと細かいことでは、東京書籍は見ばえがよくてイラストなんかもたくさんあって写真が大きくてきれいだったりという、そういう見ばえのする教科書であると思うし、割と子どもが書き込みみたいなのところが多いのかなと思うのですけれども、私は教科書に書き込むのはちょっと抵抗があるのですけれども、最近はそういうところが多くなって、これでもいいのかなと思わないでもないのですけれども。

それから内容的に言うと、かなりみんな充実してきていいと思うのですけれども、それは来年から英語の時数が105時間から140時間に時間が増えていますので、それは十分見ているのですね。単語の数も900から1,200に増えたということで、内容は少し欲張っていてもいいなと思うのです。

三省堂のほうは、例えば自己紹介のページなんかのところを見てみると、子どもが考える空欄みたいなのがちょっと多いのかなという気がするのですが、それでもいいのかもしれないのですけれども。

私としてはどちらでもいいなと、三省堂でも東京書籍でもいいなと思っています。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

英語に関してはたくさん出版社から出ていますが、私としては学校図書のトータルイングリッシュを採択候補にしたいと思います。

一番の理由は、まず日本の文化と世界の文化がバランスよく紹介されていて、しかもアメリカやイギリスの紹介が違和感がなく、難易度は別として、例えば大学や短大で使ってもおかしくないぐらいの正確な今の外国の情報が入っているのではないかと。

例えば1年生のところ、66ページ「アメリカの中学校」とあるのですが、ホームページで確認していくという形態をとっているのですけれども、実際向こうの学校はこんなような感じになっています。私ども短大のネイティブの教員が言うには「やはり日本人、英語を勉強するモチベーションがないよね。日本人、日本語だけ使っていれば社会生活できるので、例えばアジアのほかの国であれば英語ができないと職につけない。アメリカ人は英語だけ話せば、どこの国に行っても英語が使える。日本人も日本から出なければ、何か特に文化に興味があるとか、好きな人と話したいとかないと、なかなかうちの短大の学

生も英語の勉強、好きだけど身につかないというのはわかるよね」とよく言うんですよ。

それでいうと、一番トータルイングリッシュが外国に興味を持たせる内容になっているのかなど。文体も非常にすっきりしていてわかりやすい。

例えば2年生の「Fly to the UK」でイギリスに飛行機で行くのも出国から機内食から入国の紙から、実際にパスポートを見せたり、すごくイメージがわきやすいですよ。通り一遍ではなくて、ちゃんと感覚的についていくような感じになっていますし、あと個人的にはこのイラストが非常に私は好きです。

1年生のところで一般動詞から入っていくというのも私はいいんじゃないかと。順番が多少違うだけですけれども、「I am a boy」と見て男の子が自分で「I am a boy」と言わないわけですから、そこだったら「I like soccer」とか何とかわからないですけれども、そのほうが小学校の接続を考えても非常にいいのではないのかなと思います。

また全体に執筆のところを見ても、ここの学校図書のトータルイングリッシュだけ外国人が構成にかかわっていて、多分そこで自然な展開になっているのかなと思います。

ただ、文法的にはちょっと弱いので、私はこの教え方でいいと思うのですが、高校受験等を考えると、ホライズンかな。これはもう本当に私が勉強したときの教科書と基本的には同じで、最初にアルファベット、それからあいさつ、数字、週で、多分「Monday」とかと暗唱して覚えるんでしょうね。昔ながらの教科書で、月も「January」とか多分家で帰ってすべて覚えろと言われるんでしょうね。

最後のほうの、特にホライズンは応用編というところが非常に充実をされていてワードリストで単語が一团になって出ていたり、あと発音ですとか文法のところも書いているので、ここのところだけとっても教えやすいとは思っています。

ただ、力がつくかどうかはちょっと、教え方とかトータルのところは非常にここは難しいですね。伝統的な教え方にするのか、それとももうちょっと一歩進んだ教え方にするのかで、個人的にはトータルイングリッシュを強く推すのですが、中野の中学校の英語教育の現状を考えたり保護者の高校受験のことを考えるとホライズンでもいいのかなど。

あとクラウンもなかなかいいとは思っていますが、例えばちょっとボリュームがあり過ぎて、英文の。扱いつらいかなどか、あと例えば3年生で三省堂のニュークラウン、53ページ、54ページとかで日本の家屋の紹介が出てくるのですが、54ページに出てくるような縁側があって、ちゃぶ台があって、猫が寝ている家が今の中野に何軒あるのかなどか。あと

次のページでこたつでおじいちゃん、おばあちゃん、確かに理想的なのですけども、あまり実感ないですね。だから、お話としてはこういう形のものが高校入試とか出てくるんだと思います。

あと外国の紹介も、例えばマーティン・ルーサー・キング牧師、もちろんキング牧師はアメリカで亡くなった日が祝日になるぐらい非常に「I h a v e a d r e a m」の演説で重要な人物だと思うのですが、トータルイングリッシュだとスティービー・ワンダーさん。これは好みの問題なのかなと思うのですが、若干ちょっとやはりボリュームがあってちょっと使いづらいのかなと思うので、私としては第1候補は強くトータルイングリッシュなのですが、ほかの委員の意見によってはホライズンということをお願いします。

山田委員長

ありがとうございました。

最後に私からですけども、外国語、英語ですけども、時間数が各学年とも年間105時間から140時間に増えていると。また語彙の数についても900語程度から1,200語と大幅に増えているということがあります。外国語の教科書の目標は、もちろん聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うということであるかと思っています。

各委員からご報告がありましたけれども、実際に少し難しいかなというのは、光村図書は内容は非常に物語として連続性があるかと思うのですけれども、ちょっとボリュームが多くてちょっと使い切れないのではないかなというふうに感じました。ただ、読み物が非常に多いので、読むことが好きな子どもたちには合った教科書なのかなと思います。

開隆堂は多くの委員がご指摘のとおり、形状が大きい割には本文の文字が小さいということで、大きくした意味がどこにあるのかなということがちょっと気にはなります。

教育出版ですけども、今、子どもたちは、どうなのでしょう、辞書を引くということはどのくらい習慣づいているのか。電子辞書を使ってしまうのかなという気がしますけれども、辞書の引き方などがかなり詳しく出ているのは教育出版ではないかなと思いました。

また生徒自身が教科書に書き込めるような配慮がされていると思いますけれども、資料としての巻末などが少し弱いような気がいたします。

そういった中で、やはり各委員の報告がありましたように、東京書籍、学校図書、三省堂、この3つが比較的すぐれているかなというふうに思いました。特に障害者の方たちの視点からいくと、東京書籍だとか学校図書には手話ですとか点字のような記載もありまし

た。

三省堂は、やはり日本文化というのを非常に意識しているようで、日本の身近な年中行事について取り上げている箇所が大きいように思います。学校図書の動詞からの導入が一般的にはb e動詞なのに、この教科書だけ一般動詞ですけれども、この辺はどうなんでしょ
うか。先生方の教えやすさからいくと、どちらがいいのか。また今おっしゃるようにb e
動詞にあまり固執することはないのかもしれませんが。

ただ、大島委員が指摘されたように、ちょっとイラストが大き過ぎるかなと。中学校の
教科書にしてはというふうに思います。このぐらいの教科書で発展していけばいいのかと
いうご意見もあるかと思えます。

そういった中で文法に対しての要点がかなりまとまっているのは三省堂とか東京書籍、
学校図書もいいのですが、少し弱いかなというふうに思いました。

そういった中で、この3つの教科書のうちのどれが一番使いやすいか、なかなか難しい
とは思いますが、目次などの内容でわかりやすさが強調されているのは三省堂かな
と思えますけれども、全体を通じれば学校図書もしくは東京書籍も捨てがたいというふう
に思います。特に英語の発音の仕方などが丁寧に出ているのは東京書籍のように思いま
した。

そういった中では東京書籍もしくは学校図書がいいのではないかと考えております。私
からは以上です。

ほかにご発言ございますか。

(発言する者なし)

山田委員長 では、ちょっと休憩します。

午後2時55分休憩

午後3時03分再開

山田委員長

では、再開します。

ほかにご発言はございますか。

(発言する者なし)

山田委員長

ご承知のとおり、小学校でも外国語活動が始まっているわけですが、小学校との
連結ということの視点から見ますと、学校図書ではプレッスンという形で言語の使用場

面が書かれていることがございます。そういった意味では、小学校との連携ということでは使いやすい教科書になっていて、子どもたちにとって学びやすく、教師にとって教えやすい教科書の一つではないかと思えます。

そのほかにご意見ございますでしょうか。

(発言する者なし)

山田委員長

ありがとうございました。

委員の皆さんの意見をお伺いするとともに、教科書採択基準からすると、英語につきましては学校図書が最適であると思えます。英語につきましては学校図書を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

ご異議ございませんので、英語は学校図書を採択候補とすることといたします。

続きまして、特別支援学級で使用する教科書等についての協議を進めます。

指導室長から説明を受けたいと思えますので、よろしく願いいたします。

指導室長

それでは、この後特別支援学級で使用いたします教科書採択についてご協議をお願いいたします。

最初に、特別支援学級で使用いたします教科書採択の概略についてご説明申し上げます。

特別支援学級で使用する教科用図書は、学校教育法附則第9条及び同施行規則139条によりまして、文部科学大臣の検定を経た教科書または文部科学大臣が著作名義を有する教科書以外のものを使用することが可能でございます。書店で入手できる、いわゆる一般図書を教科用図書として使用できるという規定でございます。

また中野区立学校教科用図書採択に関する規則第9条の中に「当該特別支援学級を設置している区立学校の校長の意見を聞くものとする」という規定がございます。この規定に基づきまして、お手元に平成24年度使用一般図書の採択希望一覧をお示ししているところでございます。

また、この一般図書につきましては、選択の幅が広いことから都道府県単位で調査研究を行うということになってございます。東京都教育委員会が特別支援教育教科用図書選定調査資料を作成いたしまして、これを区教委を通じまして当該学校へ送付し、各学校はそ

の中から資料に基づいて希望を挙げているということでございます。

それでは、お配りしております資料をご覧いただきたいと思います。

まず1枚目のところが桃園小学校の特別支援学級の希望の一覧になっております。

見ていただきますと、国語の1年生、2年生につきましては、光村図書。希望理由は検定図書となっておりますので、ここは昨年度採択していただいて、今、現行で使っております教科書を使うという意味でございます。したがって、一般図書としましては、4年生、5年生、6年生の同成社の「ゆっくり学ぶ子のための『こくご』」1から3ということになっております。ご覧いただきまして書写のほうも検定図書を使うということ、社会科については、そこがございます「にっぽんちず絵本」「せかいちず絵本」などを使うということになっておりますが、5年生の地図については帝国書院の地図帳、いわゆる検定図書を使うということになってございます。

次のページが桃園小学校の続きとなっておりますが、3枚目、新井小学校をご覧いただきたいと思います。

新井小学校の算数の1～2年生、3年生、4年生の分につきましては、教育出版の算数の星本となっております。これは文部科学省が著作をしているものでございまして、特別支援学校用の教科用図書ということになっております。新井小学校の算数、1～2年生、3年生、4年生については、これを希望しているというものでございます。そのほか5年生、6年生については一般図書、そこがございます本を希望してございます。

同じように新井小学校の後、大和小学校、江原小学校、西中野小学校、緑野小学校というふうが続いております。

次のところに第二中学校のものがございまして、後ろから4枚目になりますが、ご覧いただきたいと存じます。

国語の教科書として希望しているのが「五味太郎・言葉図鑑6」「子どもの生活3」ということになっておりますが、次の書写については検定教科書となっております。ここは発行者、希望理由等ございませんけれども、これはこの間まで、前回といいますか、採択協議をしていただいて次回採択をするものがここで入ることになっております。

同じように次のページが第四中学校。第四中学校の国語の1年生については、国語の星本の4つ星のものが入っています。書写については検定教科書の予定となっております。数学についても1年生は星本の4つ星が入ってございます。

次のページが第七中学校のもの。そして最後のページが緑野中学校のものというふう

なっておりますので、詳細をご覧いただきたいと思います。

また一部、皆様の左の書記の席のところに一部の本がございますけれども、一般図書と星本を置いてございますので、ご覧いただきたいと思います。ご説明は以上でございます。

山田委員長

ただいまの説明につきましてご質問はございますか。

飛鳥馬委員

星本は、どの教科もございますか。

指導室長

国語と算数。

山田委員長

ほかに。

指導室長

失礼しました。音楽もございます。国語、算数、数学、音楽。

山田委員長

ほかにご質問ございますか。

(発言する者なし)

山田委員長

特別支援学級で使用する教科書等につきましては、子どもたちの個に応じた指導ということで学校側からの推薦が出ているわけでございますが、特別支援学級で使用する教科書等につきましては、お手元にある資料にございます教科書を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

ご異議ございませんので、ただいま説明のあった教科書を採択候補とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、これですべての種目について協議が終わりましたが、採択候補の教科書について協議した教科種目の順に確認をしたいと思います。

指導室長から説明をお願いいたします。

指導室長

それでは順番に種目ごとに採択候補の出版社名を挙げてまいります。

国語、教育出版。書写、教育出版。地理、教育出版。歴史、教育出版。公民、教育出版。地図、帝国書院。数学、東京書籍。理科、大日本図書。音楽、教育芸術社。器楽、教育芸術社。美術、光村図書。保健体育、学研。技術、開隆堂。家庭、開隆堂。英語、学校図書。以上でございます。

山田委員長

ただいま指導室長から説明のありました教科書を採択候補としたいと思いますが、これで全体を振り返って再度、教科種目ごとにご意見などがございましたらお願いいたします。

(発言する者なし)

山田委員長

よろしいでしょうか。特にご意見がございませんので、ただいま確認した内容に基づきまして、来週8月5日、午前10時に開会予定の第22回定例会で議案として改めて審議したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

それでは8月5日の第22回定例会で改めて審議することといたします。

次に、採択結果の公表の時期、方法等につきまして確認したいと思います。

それでは指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長

長時間にわたり慎重なご協議をいただきまして、ありがとうございます。

今後の採択後、採択結果の公表の時期、方法等についてご説明申し上げます。

先ほどお話しいただきましたように、採択候補が決定いたす予定の来週8月5日でございますが、ここで議案として提出をいたします。その議決後、採択結果を東京都教育委員会に結果の報告がございます。その後ホームページへの掲載、「教育だより」への掲載等によりまして区民への周知をまいります。

また会議録の公開でございますけれども、採択記録にかかわる会議録の公開につきましては、次回の定例会で公開の議決をいただいた後、会議録ができ次第、公開をしていく予定でございます。おおむね9月中旬以降というふうに考えております。ご説明は以上でございます。

山田委員長

ただいまのご説明に対しまして質問はございませんか。

(発言する者なし)

山田委員長

ほかにご質問がないようですので、それでは、採択結果の公表の日程は、ただいま説明をいただいたとおりでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

山田委員長

それでは、そのようにさせていただきます。

そのほか何かございますか。

子ども教育経営担当

教科書採択に関わる陳情の取り扱いにつきまして、ご説明させていただきます。

7月27日の第1回臨時会の中でご報告させていただきましたが、教科書採択にかかわる陳情が1件提出されております。その取扱いについて口頭でご報告させていただきます。

本日の臨時会ですべての教科種目にわたる教科書協議が終了し、採択候補の教科書について協議が整ったところでございます。先ほど委員長からご発言がございましたので、8月5日に開催されます定例会において、平成24年度から使用する中学校の教科書につきまして採択がなされることと思っております。

そこで、提出されております教科書採択にかかわる1件の陳情の取り扱いでございますが、定例会で議決されました結果を、陳情の提出者に通知することにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

山田委員長

教科書採択に関わる陳情の取扱いについては、そのようをお願いいたします。

私からですけれども、教科書採択に当たりまして多くの区民からたくさんのご意見をいただきました。ここで改めて御礼を申し上げたいと思っております。

また、教科書採択を通じて私から感じたことを少し述べさせていただきます。

私は主に健康の分野等に非常に関心があるわけでございますけれども、文部科学省が定めています学習指導要領の中で少しまだ現実に遅れている部分があるかなと思っておりますのは、例えば病気のあり方の中では、がんについての取り扱いではないかなと思っております。

今、私たち日本人の死亡の第一原因は、がんでの死亡でございます。学校の教育の中で、がんというものに対して多少の知識がないと将来にがん検診などの受診率の向上に対して教育が行き届かないようなこともございます。私たちの体の細胞は60兆の細胞があつて、

6,000億の細胞が入れかわっているわけでございます。このリペアのミスががんであるということが明らかになってきているわけですから、その基本の基本のところあたりは教科書で記載できるようなことが将来的にあってもいいのではないかなというふうに感じてございます。私からは以上です。

ほかに何かご意見ございますでしょうか。

(発言する者なし)

山田委員長

よろしいでしょうか。長時間にわたりましてありがとうございました。

以上で本日予定した審議は終了いたしました。

これもちまして教育委員会第3回臨時会を閉じます。ありがとうございました。

午後3時15分閉会